

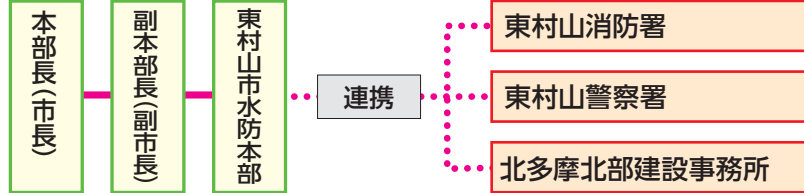


# 東村山市の風水害対策

## 市の活動体制の整備

市では、洪水の発生または発生のおそれがある場合に、職員を動員し、非常配備態勢を取ります。

### ●東村山市水防組織図

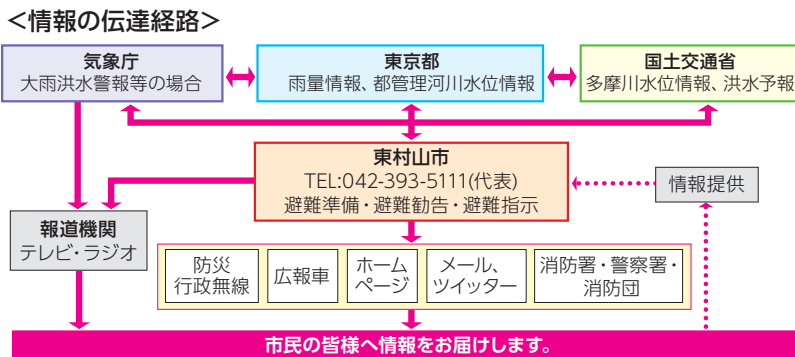


## 情報収集、広報活動

### ●気象情報等の収集・伝達体制

市では、重要な注意報および警報・特別警報のほか、気象庁の降水短時間予報やレーダーナウキャスト、東京都の水防災総合情報システムや東京アメッシュ等、降雨や河川の実況、予測に関するリアルタイム情報を常に監視し、必要な情報を市民の皆様へ、伝達する体制を整備しています。

### ●洪水予報等・避難情報の伝達方法



## 避難体制

### ●避難勧告等の具体的判断基準

市では、避難勧告等について気象予測や河川巡視等からの報告を含めて総合的に判断して発令します。

河川名	(1) 柳瀬川(前川・北川) 溢水水氾濫	(2) 空堀川 溢水水氾濫
避難準備(避難行動要支援者)情報	水位観測所の水位が注意水位に達し、危険水位への到達が予想されるとき	市内又は上流の水位観測所の水位が注意水位に達し、危険水位への到達が予想されるとき
避難勧告	水位観測所の水位が警戒水位に達し、危険水位への到達が予想されるとき	市内又は上流の水位観測所の水位が警戒水位に達し、危険水位への到達が予想されるとき
避難指示	水位観測所の水位が危険水位に達したとき	市内又は上流の水位観測所の水位が危険水位に達したとき

対象地区	(3) 内水氾濫等
避難準備(避難行動要支援者)情報	●本市において1時間で40mmの降雨が予想されるとき ●近隣の地区で床上浸水や道路冠水が発生したとき
避難勧告	●近隣の地区で床上浸水や道路冠水が発生し、かつ、本市において1時間で40mmの降雨が予想されるとき ●近隣の地区で床上浸水や道路冠水が発生し、被害が拡大しているとき ●土砂災害警戒情報が発表されたとき ●大雨警報(土砂災害)の発表中に記録的短時間大雨情報が発表されたとき
避難指示	●近隣の地区で床上浸水が発生したとき ●大雨特別警報(土砂災害)が発表されたとき ●土砂災害警戒情報の発表中に記録的短時間大雨情報が発表されたとき

## 水防活動

### ●土のうの備蓄

市では、風水害に備え、市内各所に土のうを備蓄しています。主に、東村山消防署の本署及び各出張所、各消防団詰所、各ふれあいセンター、東村山警察署が備蓄場所になっています。

### ●消防・警察・都建設局との連携した活動

市では、気象状況等により洪水等のおそれがあるときは、直ちに事態に即応した配備を整えます。また、水位が上昇するなど水防活動が必要なときは、消防機関に対し出動を要請するとともに、直ちに都建設局に報告します。

洪水による著しい被害が切迫しているときは、避難等が必要な地域の安全確保のために警察に出動を求めることがあります。

### ●避難所の開設

市は、洪水のおそれがある、または浸水被害にあった場合に、避難所を開設します。

**ただし、風水害時の避難所は地震発生時の避難所とは異なる場合があります。**また、所沢市との市境の市民の避難場所として3か所の避難場所(荒幡小・北秋津小・松井小)を確保します。



# 東村山市の警報・注意報発表基準等

警報とは、重大な災害が起こるおそれのあるときに、警戒を呼びかけて行う予報です。また、注意報は、災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。

警報や注意報は、気象要素(雨量、風速など)が基準に達すると予想した区域に対して発表します。ただし、災害の発生状況によっては、この基準にとらわれず発表することもあります。

## 雨に関する東村山市の50年に一度の値(特別警報の発表基準)

大雨特別警報は、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測され、もしくは数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表されます。

降水量・土壌雨量指数	48時間降水量(mm)	3時間降水量(mm)	土壌雨量指数(SWI)
50年に一度の値	377	142	240

※特別警報は、数十年に一度の大災害が起こると予想される時に発表されます。また府県程度の広がり度50年に一度の値となる現象を対象とします。ただし、個々の市町村で50年に一度の値となることのみで特別警報となるわけではありません。

## 警報・注意報発表基準一覧表

気象庁予報部 平成26年10月9日現在

警報	気象情報		発表のための基準値		
	大雨	洪水	大雨	洪水	
警報	(浸水害)	雨量基準	雨量基準	1時間雨量40mm	
	(土砂災害)	土壌雨量指数基準	土壌雨量指数基準	170	
	洪水		雨量基準	雨量基準	1時間雨量40mm
			流域雨量指数基準	流域雨量指数基準	空堀川流域=17 柳瀬川流域=11
			複合基準	複合基準	—
		指定河川洪水予報による基準	指定河川洪水予報による基準	—	
暴風	平均風速	平均風速	25m/s		
暴風雪	平均風速	平均風速	25m/s 雪を伴う		
大雪	降雪の深さ	降雪の深さ	24時間降雪の深さ20cm		
注意報	(浸水害)	雨量基準	雨量基準	1時間雨量20mm	
	(土砂災害)	土壌雨量指数基準	土壌雨量指数基準	144	
	洪水		雨量基準	雨量基準	1時間雨量20mm
			流域雨量指数基準	流域雨量指数基準	空堀川流域=14 柳瀬川流域=9
			複合基準	複合基準	—
		指定河川洪水予報による基準	指定河川洪水予報による基準	—	
強風	平均風速	平均風速	13m/s		
風雪	平均風速	平均風速	13m/s 雪を伴う		
大雪	降雪の深さ	降雪の深さ	24時間降雪の深さ5cm		

※土壌雨量指数とは、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ貯まっているかを気象庁が指数化したものです。

※流域雨量指数とは、河川の流域に降った雨が、どれだけ下流の地域に影響を与えるかを気象庁が指数化したものです。

## 土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市長が避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう、また、市民の自主避難の判断の参考となるよう、対象となる市区町村を特定して警戒を呼びかける情報で、東京都と気象庁が共同で発表しています。

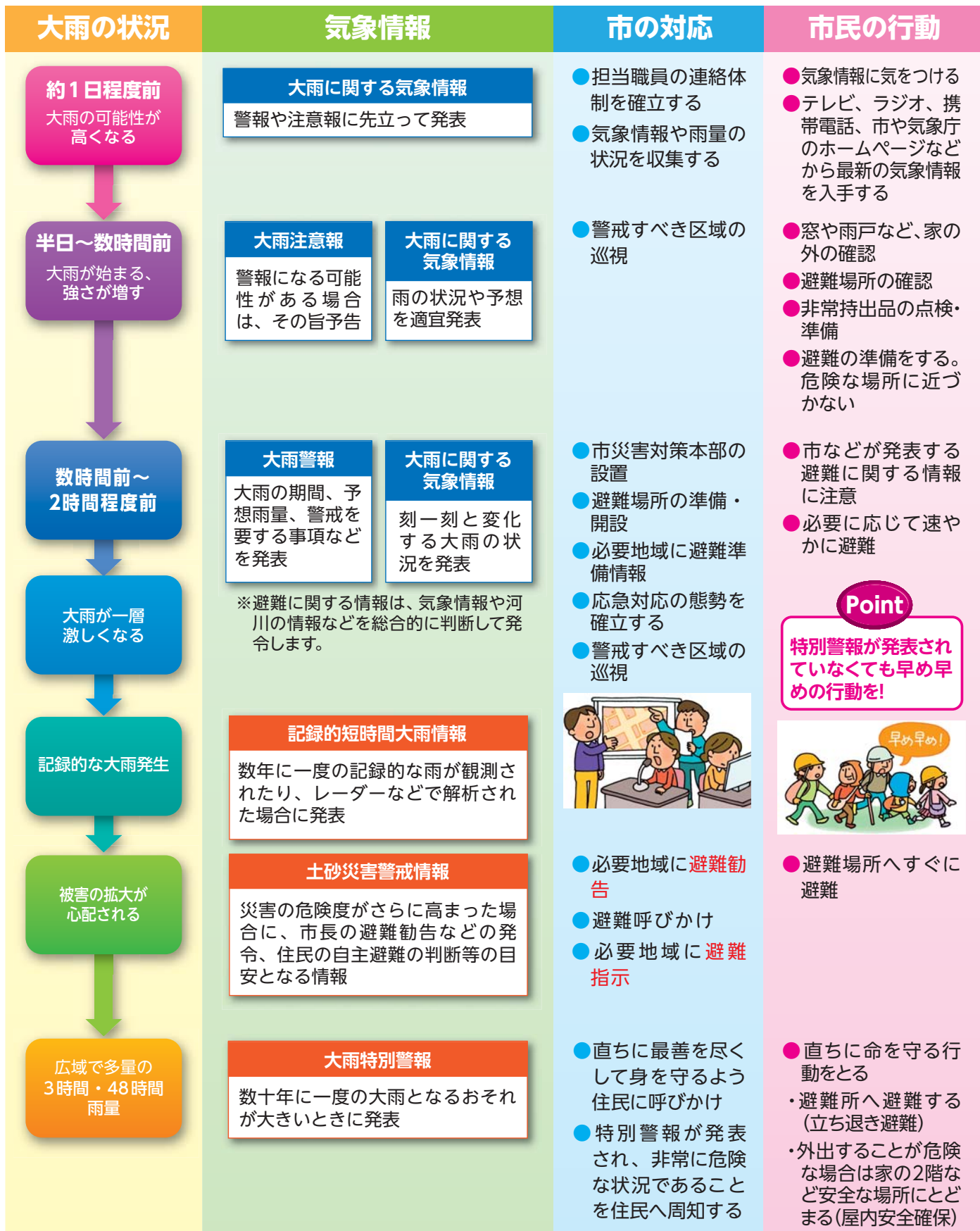


## 急傾斜地崩壊危険箇所

急傾斜地崩壊危険箇所とは、高さ5m以上、傾斜度が30度以上で、がけ崩れが発生した場合に人家などへの被害のおそれがある箇所をいい、東京都が指定しています。

市では、地域の皆様に注意を呼びかけるため、41ページ以降の「洪水ハザードマップ」に急傾斜地崩壊危険箇所を表示しています。

# 大雨などに関する情報 と避難行動のポイント



## ■避難に関する3つの情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報が発令されます。3種類の情報は状況の深刻度に応じて出されるので、各情報に応じた避難行動をとりましょう。

### 1 避難準備情報

人的被害の発生する危険性が高まった状況



- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。

### 2 避難勧告

人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況



- 発令された地域の住民は指定された避難場所に避難を始めます。

### 3 避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況



- 避難中の住民は直ちに避難を完了してください。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、家の2階など安全な場所にとどまります。

## ■雨量と雨の強さ

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて			ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	
			車の運転は危険		
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生のおそれが強く、厳重な警戒が必要

## ■ゲリラ豪雨の危険性について

近年、狭い範囲に短い時間で強い雨を降らせる「局地的大雨」や「集中豪雨」によって、人の命が奪われるケースが起きています。これらの雨は、発生の予測が難しいことから、通称「ゲリラ豪雨」と呼ばれています。

ゲリラ豪雨による水害の特徴としては、「河川の氾濫」「急な増水」「低い土地が水に浸かる」などがあります。河川に遊びに行くときは、天気予報などで局地的な雨の心配がないか確かめるなど十分に注意しましょう。

### ■短時間で危険な水位

河川、溪流、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態となります。



### ■注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する

大雨や洪水の警報・注意報の発表基準に達していない雨でも、災害が発生するおそれがあります。



### ■下水の排水能力を超える大雨

下水道の雨水排水能力（1時間当たり50mm）を大きく超える時間雨量100mm以上の豪雨が頻発しています。



### ■離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降っていなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。



## ■道路の冠水に注意

近年多発する局所的な豪雨「ゲリラ豪雨」により、低い土地にある道路が冠水し、進入した車両が動けなくなる事故が全国的に発生しております。水の深みにはまると、エンジンが停止し、水圧や電気系統の故障でドアや窓が開けられず、脱出できなくなるおそれがあります。



### 道路冠水などの情報提供・土のうの要請

市では、市民の皆様からの通報で把握した道路の冠水箇所について、注意喚起を行います。冠水箇所を発見されたときは、市役所への情報提供をお願いします。また、住宅への浸水など、土のうが必要な場合は、早めに市役所へ土のうを要請してください。



お問い合わせ先

☎042-393-5111 (代表)

## ■竜巻・落雷時の避難時の注意点

### ●竜巻の前兆現象を確認したら

竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。竜巻注意情報が発表され、急に空が暗くなる、冷たい風が吹き出す等の竜巻の前兆現象を確認したら、頑丈な建物内に避難するなどして身の安全を確保しましょう。また、雷も発達した積乱雲に伴って発生します。野外で活動していて雷が近づいてきた場合も建物の中に避難しましょう。（※過去、東村山市内で竜巻による被害はありません。）



### ■竜巻注意情報の発表タイミング

時間	気象情報
半日～1日前	「気象情報」を発表 「竜巻など激しい突風のおそれ」と明記します
数時間前	「雷注意報」を発表 落雷、雹などとともに、「竜巻」も明記します
0～1時間前	「竜巻注意情報」を発表 今まさに竜巻の発生しやすい気象状況になっていることをお知らせします
竜巻発生	

### 竜巻が迫ってきたら

#### 屋内にいる場合

- 窓ガラスから離れる
- 雨戸、窓、カーテンを閉める
- 窓のない部屋に移動する
- 丈夫な机やテーブルの下に入って身を守る



#### 屋外にいる場合

- 物置や車庫、プレハブの中は危険
- 電柱や樹木のそばも危険
- 頑丈な建物の物陰などに入り、身を小さくする
- 建物がなければ、水路などくぼんだところに身を伏せて両腕で頭や首を守る



### 竜巻の前兆

- 空が急に暗くなる
- 大粒の雨や雷が降る
- 漏斗状の雲が目撃される
- 「ゴー」というジェット機のような音が聞こえる

### ●雷が迫ってきたら

#### ■落ちやすい場所がある

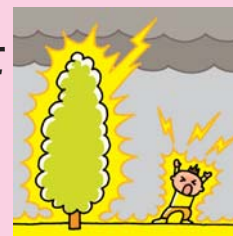
##### 周囲より高い場所に落ちやすい

- ゴルフ場や砂浜、グラウンドなど開けた場所や山頂などでは人に落ちやすい



##### 近くにある高いものをつたって落ちる傾向がある

- 木のそばは危険



#### 雷鳴が聞こえたらすぐ避難する

- 鉄筋コンクリートの建物や自動車、バス、列車など屋根のある乗り物へ避難する
- 木造家屋の場合は、すべての電気器具、天井・壁から1m以上離れるとより安全



#### 近くに安全な場所がないときは



- 電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げ、4m以上離れた範囲（保護範囲）に退避する
- 高い木の近くでは、すべての幹、枝、葉から2m以上離れる
- 姿勢を低く保ち、持ち物は体より高く突き出さない
- 雷の活動がやみ、20分以上経過したら安全な場所に移動する

### 雷の前兆

- 積乱雲が発達する
- 空が暗くなる
- 突風が吹く
- 激しい雨が降る

### ※雷にも注意！

- 積乱雲の下では、雷や竜巻のほかにも、雹が降る可能性があります。

- かたまりとなった雹は、大変危険です。すぐに安全な建物や車の中などに避難しましょう。

